

会社説明資料

株式会社アルプス技研 2019年12月期

－東京証券取引所市場第一部 証券コード：4641－

開発・設計の高度技術者集団

～目 次～

- ① 2019年度 決算概況 …P.3～**
- ② 2019年度 施策結果 …P.11～**
- ③ 2020年度 施策 …P.12～**
- ④ 2020年度 業績・配当予想 …P.17～**
- ⑤ 新中期経営計画・株主還元策 …P.19～**

- ・次世代に向けた積極的な研究開発投資が継続
- ・通商政策/為替動向の影響を注視

製造業界

輸出動向

弱含み

※米中貿易摩擦の
先行き注視

業界動向

R&D投資活発

車…次世代車向け
半導体…5G需要拡大

人材業界

派遣要請

高稼働率維持
需給逼迫

人材獲得競争

採用手法の多様化や
早期化に伴い競争激化

■ 2019年度 決算概況

- ・連結/グローバル事業 大型案件検収で売上拡大
- ・個別/人数・単価UPで堅調な伸び

(単位：百万円)

【連結】	2018年12月期	2019年12月期	増減率
売上高	32,781	36,371	11.0%
営業利益	3,586	4,014	11.9%
経常利益	3,605	4,098	13.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,667	2,908	9.0%

【個別】	2018年12月期	2019年12月期	増減率
売上高	27,480	29,684	8.0%
営業利益	3,156	3,579	13.4%
経常利益	3,361	3,755	11.7%
当期純利益	2,541	2,715	6.9%

- ・営業利益率は11.04%で着地
- ・社員数増加が売上増加に寄与

(単位：百万円)

【連結】	2018年12月期	2019年12月期	増減率
売上高	32,781	36,371	11.0%
売上原価	24,406	27,173	11.3%
売上総利益	8,374	9,197	9.8%
販管費	4,788	5,183	8.3%
○売上高販管費率	14.60%	14.25%	-0.35%
営業利益	3,586	4,014	11.9%
○売上高営業利益率	10.94%	11.04%	0.10%
営業外収益	114	148	29.8%
営業外費用	95	64	-32.0%
経常利益	3,605	4,098	13.7%
特別利益	300	200	-33.4%
特別損失	81	0	-99.1%
税金等調整前当期純利益	3,824	4,297	12.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,667	2,908	9.0%
○売上高当期純利益率	8.13%	7.99%	-0.14%

主な売上・利益増加要因

- ① 高稼働率の維持
- ② 単価の上昇
(契約単価・実単価共に)
- ③ 稼働人数の増加
- ④ 社員数の増加

主なコスト増加要因

<持続性：個別>

- ① 原価増
⇒技術者数増加のため

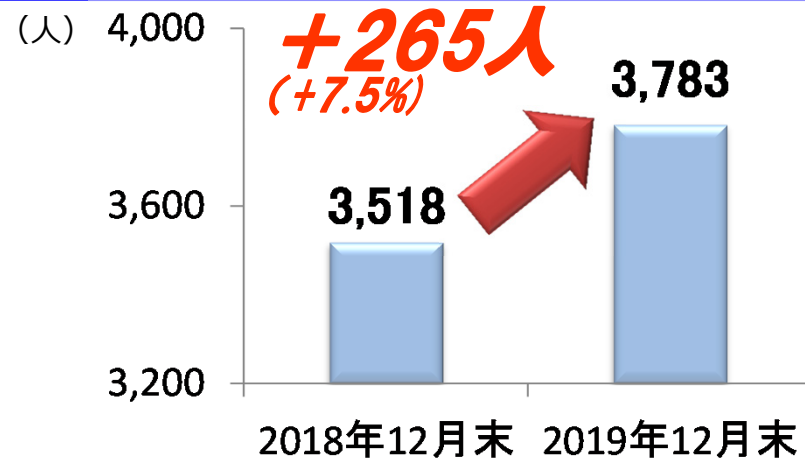
<持続性：連結>

- ② 募集費増加
⇒質を重視した積極採用・
グループ採用強化のため

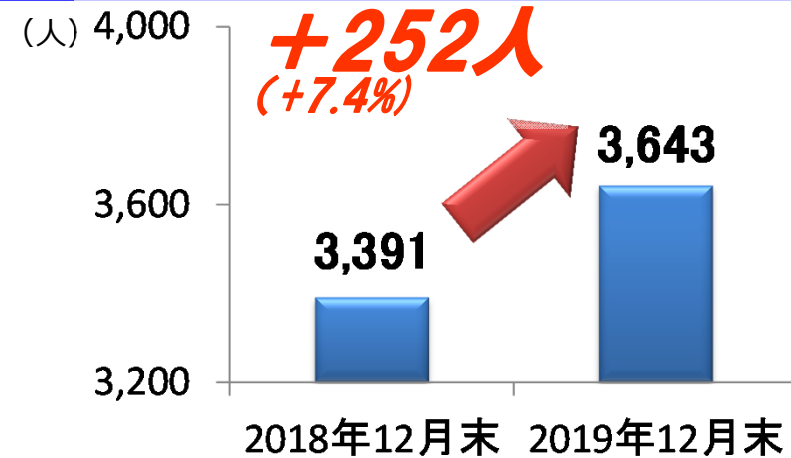
働き方改革の影響で稼働工数減少/契約単価4千円超過

※売上を構成するのは残業代を含む「実単価」。注記参照

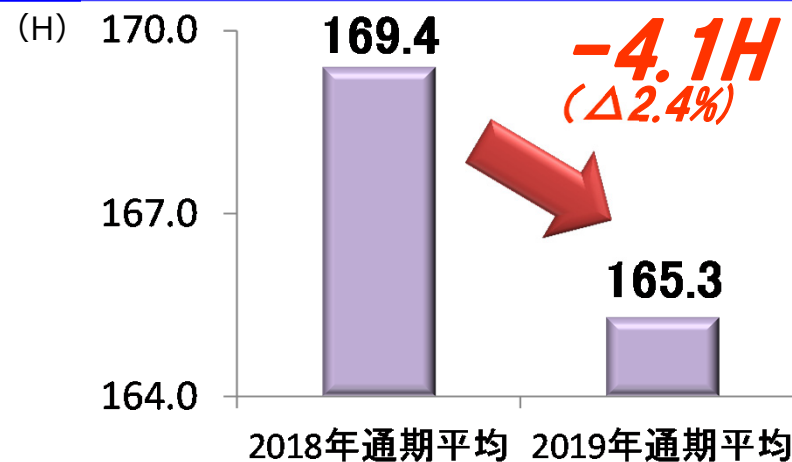
技術社員数 ※2019年12月末時点



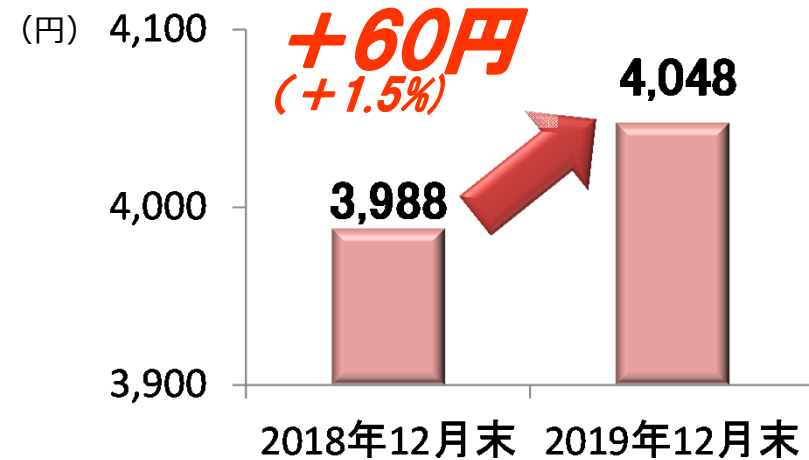
稼働人数 ※2019年12月末時点



稼働工数 ※2019年度通期平均(1-12月)



契約単価 ※2019年12月末時点 ※実単価とは異なる。



※契約単価・・・顧客との契約に基づく「1時間当たりの単価」。売上を構成する「実単価」と異なり、残業代を含まない。

※稼働工数・・・技術者として業務に対応した「月当たりの実務時間」。

■ 稼働工数動向と営業について

外部環境の変化

- ・働き方改革で残業△、法律で残業時間や有休取得日数の要件が厳格化
- ・残業規制が優良派遣事業者認定の要件に追加

2Q 特殊要因(※)

- ・5月大型連休による工数減
⇒計画に織り込み済み



当社の対応

今後の予想

- ・特殊要因(※)を除いた場合、工数減少は年々緩やかに
- ・所定労働時間(月約160時間)を下回ることは考えにくい

1. 営業戦略のシフト

一人当たりの工数△を人数増+単価UPでカバー



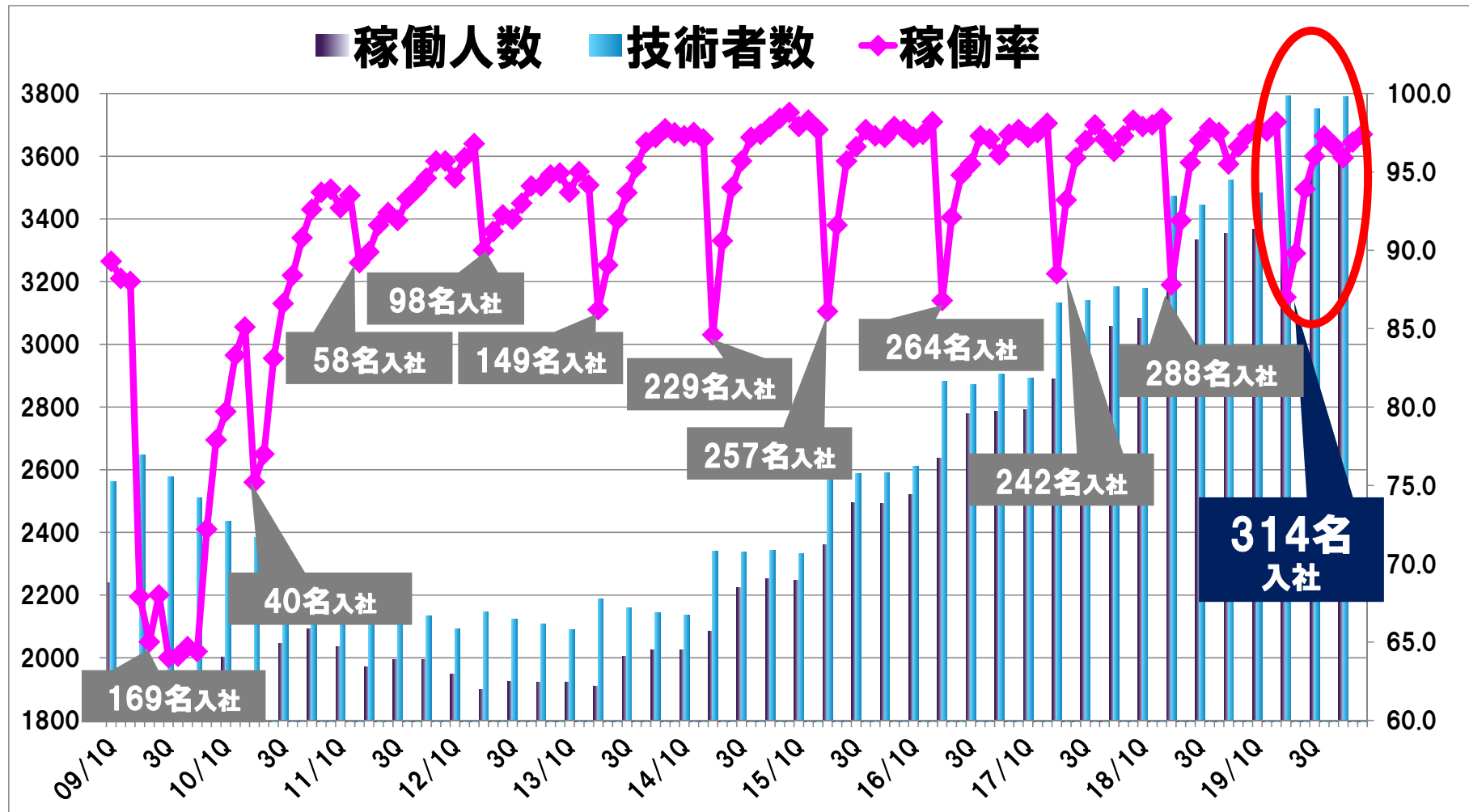
人数増
単価UP

2. 顧客毎の工数分析で繁閑を見極め、成長分野・領域の技術力を向上し案件獲得

- ・フル稼働に近い高稼働率を維持
- ・多様な採用活動推進により新卒300名超過

(単位:人)

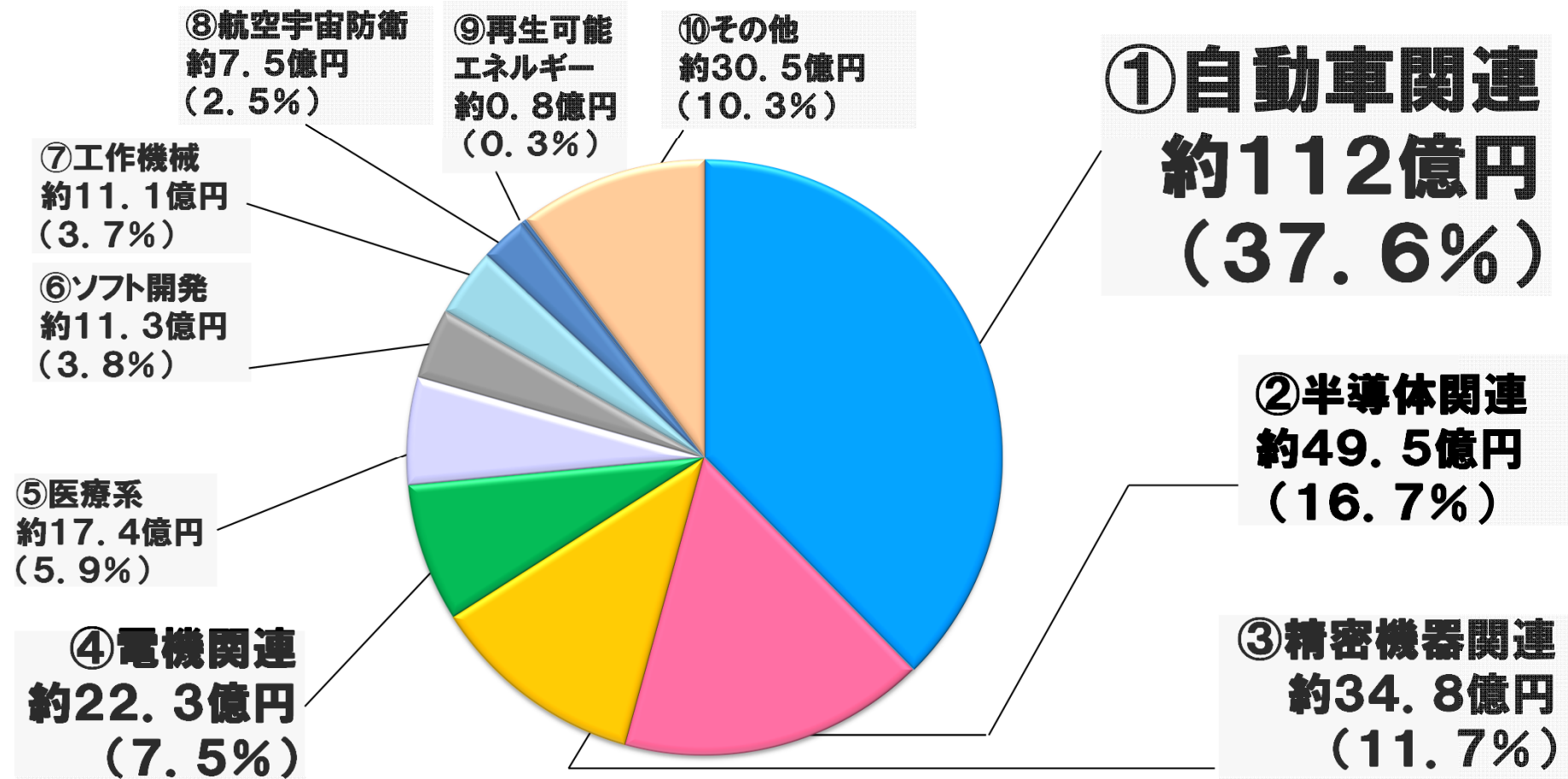
(単位:%)



※①「稼働人数」…四半期毎の稼働人数(人) ②「技術者数」…四半期毎の技術者総数(人) ③「稼働率」…月当たりの新卒を含む全社稼働率(%)
 グラフ内入社者数…4月入社の新卒技術者数(キャリア採用・秋入社のグローバルエンジニアは含まない)

- ・自動車関連は次世代車対応が増加
- ・5Gや先端技術需要で半導体/ソフト開発が増加

業種別売上高(2019年 通期)※上位順



※上記グラフは最終製品に紐付く分類。【例】技術分野:電機、最終製品:EVの場合⇒「①自動車関連」に分類

自動車、半導体関連の需要が堅調

売上上位10社

2017年度 通期	2018年度 通期	2019年度 通期
三菱電機	三菱電機	三菱電機
東芝メモリ	東芝メモリ	キオクシア(旧東芝メモリ)
キヤノン	東京エレクトロンのテクノロジーソリューションズ	東京エレクトロンのテクノロジーソリューションズ
東京エレクトロンのテクノロジーソリューションズ	アイシン・エイ・ダブリュ	アイシン・エイ・ダブリュ
ソニーセミコンダクタ	ソニーセミコンダクタ	日立オートモティブシステムズ
アイシン・エイ・ダブリュ	キヤノン	ソニーセミコンダクタ
日野自動車	東京エレクトロン宮城	東京エレクトロン宮城
三菱重工業	オートリブ	キヤノン
ソニーLSIデザイン	日野自動車	本田技術研究所
デンソーテン	日立オートモティブシステムズ	デンソーテン
上位10社比率 19.4%	上位10社比率 20.0%	上位10社比率 19.6%



※東芝グループの表記・・・2017年4月以降2018年迄は、分社化に伴い、東芝様、東芝メモリ様の2社に分けて表示

■ 2019年度 施策結果

1. アルプス技研

① 20年新卒（グローバルエンジニア含む）/19年キャリア採用

- グループ連携活性化の一方、更なる早期化対応が必要 ● 20年新卒（4月入社）：目標未達見込。通年採用で対応予定
- 19年キャリア：微減。質重視で採用

② 未来思考・独創型の人材育成を目指す教育研修

- グローバル人材含む通年入社/研修実施
- 先端技術/ミドル人材育成の推進

③ 市場変化を先取りした営業展開

- チーム化率上昇 ● 全社でアグリ営業推進
- 先端技術分野へのシフト

2. グループ会社

① ABS

- 新卒の早期稼働達成。売上高堅調な伸び

② パナR&D

- CASE対応やソフト開発関連の売上拡大

③ 台湾・上海

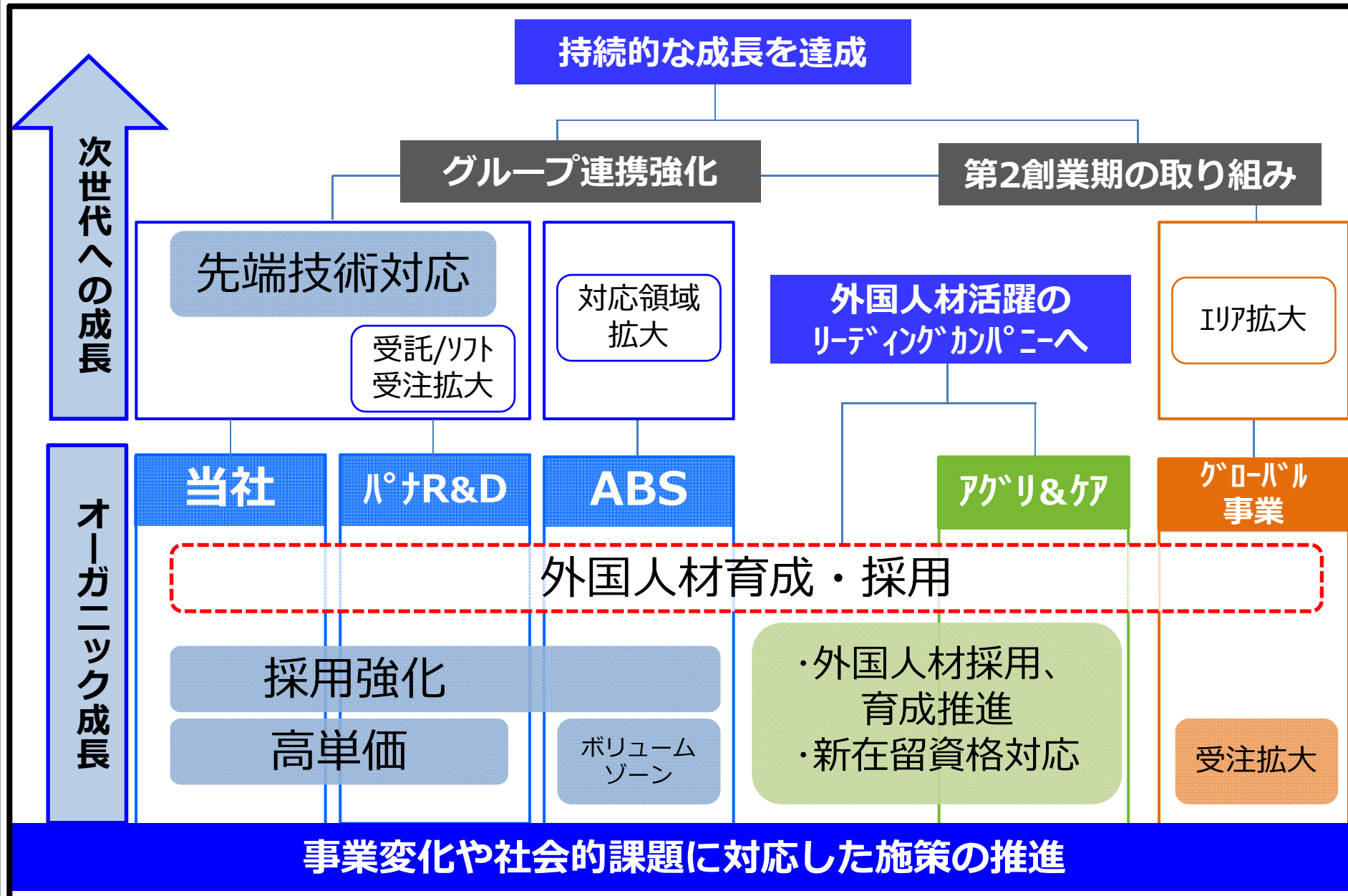
- 大型案件の売上検収、一部案件の早期完成で売上、利益ともに大幅拡大

④ アグリ&ケア

- 新設在留資格で外国人材の採用/派遣推進

【備考】 ABS …アルプスビジネスサービス、グローバルエンジニア…中国、ベトナム等の新卒外国人技術者。当社が現地大学等と提携、育成し採用。

■ 次世代を創る施策



■ 2020年 次世代を創る施策(個別)

成長を支える3本柱[採用・教育・営業]の好循環

1. 採用

- ①環境変化を捉えた早期採用の強化
- ②社員紹介強化・質重視のｽﾎｰﾄ"選考
- ③多様性に富んだ人材の確保

達成目標

- ・'21新卒280名採用
- ・'20ｷｬﾘｱ130名採用

2. 教育

- ①ミドル人材強化/育てる組織の構築
- ②先端技術・成長分野の高度人材育成
- ③グローバル人材の教育体制定着

- ・次代の人材育成、
拡大成長実現に
向けた組織の構築

3. 営業

- ①成長企業・分野との取引拡大
- ②新入社員の即戦力強化
- ③高付加価値化による高単価の実現

- ・成長分野拡大による
高単価の達成
- ・CSレベル向上

■ 2020年度 通期施策(グループ)

変化の先を予測し
スピード感あるグループ連携を一層強化

国内

ABS

人材サービス拡大・新規事業
がリムゾーンの単価UP実現

パナR&D

高度技術を活かしCASE等
成長分野・受託・請負拡大

チ
ーム
アル
プ
ス

海外

台湾・上海・ミャンマー

既存事業の領域拡大
グループ連携で新規事業推進

日本国内のグローバル人材受入

優秀人材獲得に向けた通年
採用強化/登録支援事業

アグリ&ケア（2018年4月設立）

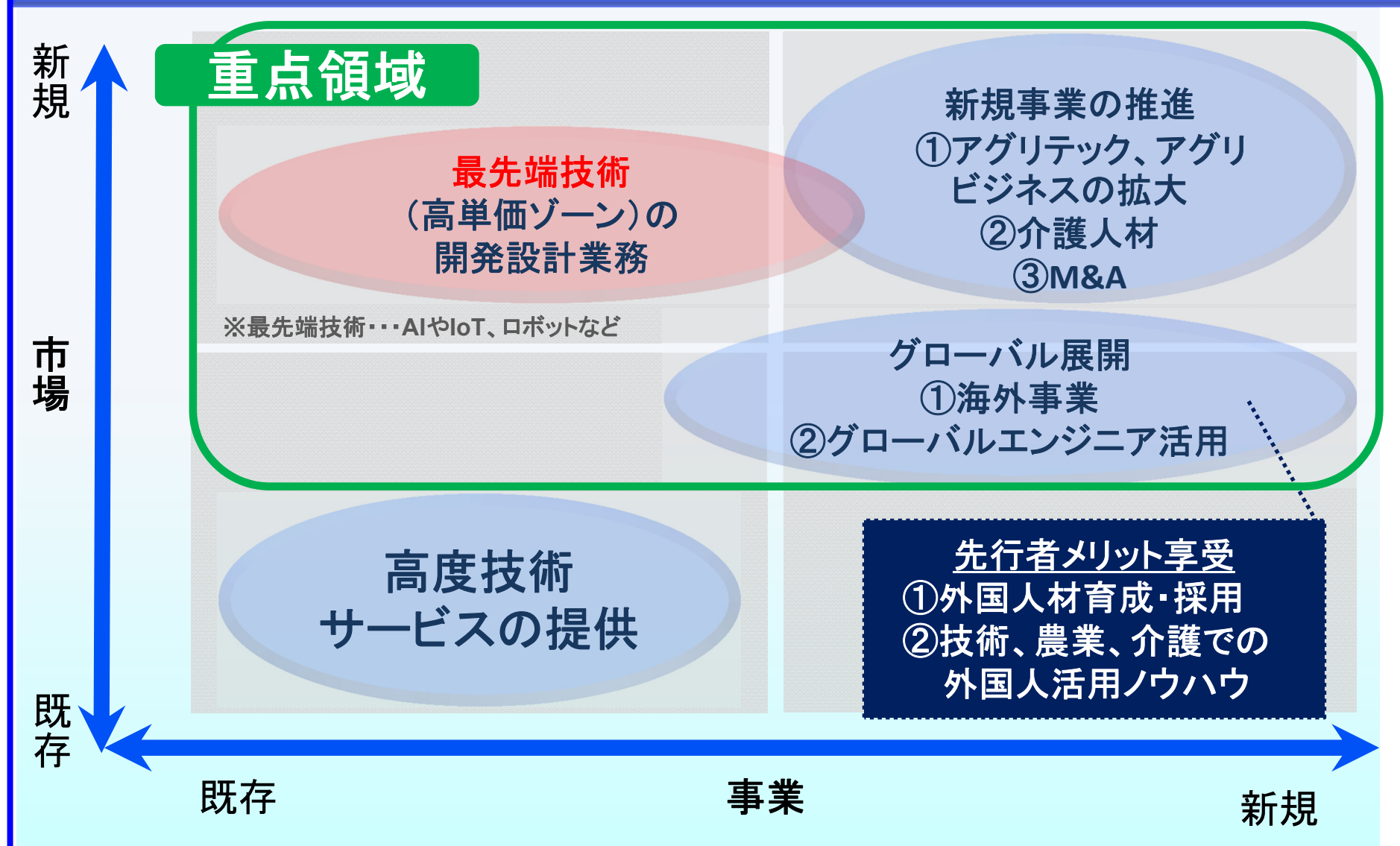
新設在留資格を活用し全国でアグリテック/アグリ人材営業強化
東南アジアの採用人数増加、リーディングカンパニーの地位確立

※ABS…アルプスビジネスサービス

Copyright © 2020 Altech Corporation All Rights Reserved

■ 中長期成長ビジョン

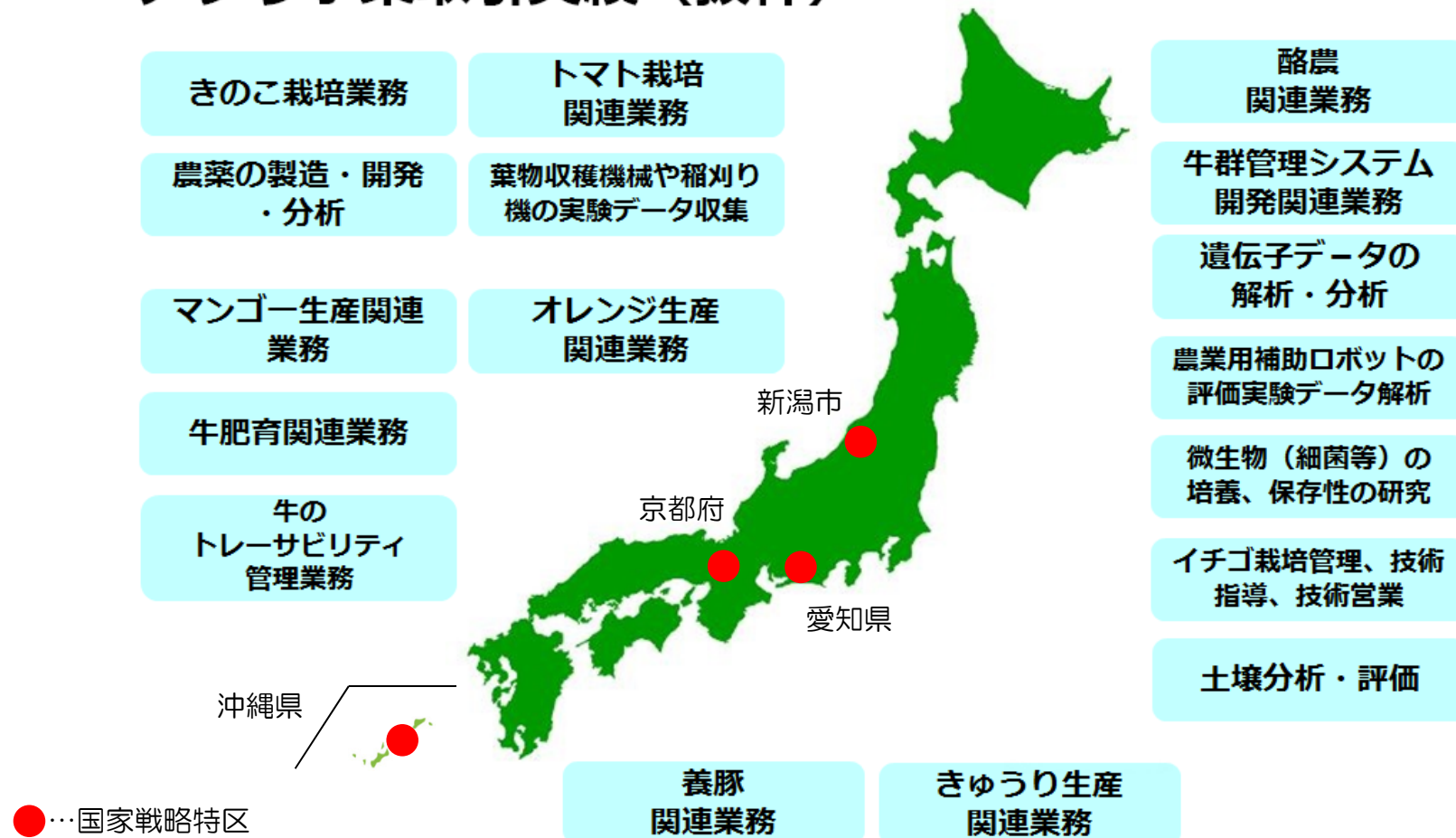
既存事業の強化・新規事業への挑戦



■ 全国で着実にアグリテック・アグリ人材派遣推進

グループ全体で外国人採用推進/育成ノウハウ結集

アグリ事業取引実績（抜粋）



●2019年9月 当社が人材派遣会社で全国初の「特定技能1号」取得
アグリテック・アグリに対応可能な外国人材を東南アジアから幅広く採用・育成

■ 業績予想

連結：最高業績更新へ

(単位：百万円)

【連結】	実績					業績予想	
	18年度通期	2019年度通期				2020年度通期	
	実績	期初予想 (19年2月公表)	実績	前年同期比	期初予想比	金額	前年同期比
売上高	32,781	35,470	36,371	11.0%	2.5%	38,320	5.4%
営業利益	3,586	3,780	4,014	11.9%	6.2%	4,270	6.4%
経常利益	3,605	3,860	4,098	13.7%	6.2%	4,270	4.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	2,667	2,680	2,908	9.0%	8.5%	2,910	0.1%

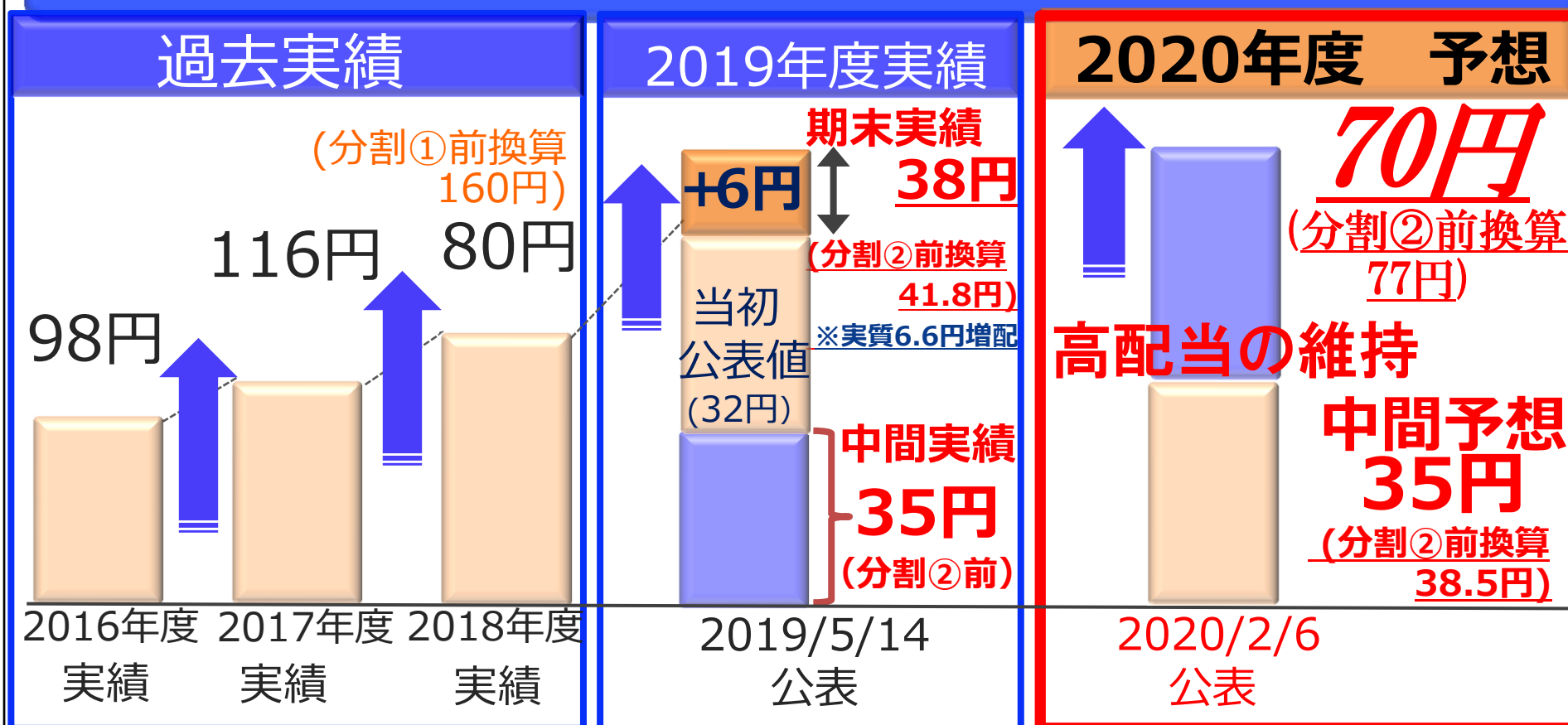
【個別】	実績					業績予想	
	18年度通期	2019年度通期				2020年度通期	
	実績	期初予想 (19年2月公表)	実績	前年同期比	期初予想比	金額	前年同期比
売上高	27,480	29,840	29,684	8.0%	-0.5%	31,630	6.6%
営業利益	3,156	3,210	3,579	13.4%	11.5%	3,710	3.7%
経常利益	3,361	3,520	3,755	11.7%	6.7%	3,920	4.4%
当期純利益	2,541	2,510	2,715	6.9%	8.2%	2,730	0.6%

●利益予想： 先端技術や次世代車等、顧客ニーズは堅調のため、本業は好調に推移する見込み。一方、景気の減速懸念を踏まえ、工数については抑制傾向で想定。

■ 配当予想（2020年度年間配当金）

【配当の基本方針】

- ・ 連結ベースでの配当性向50%を基本とする
- ・ 中間配当金は年間配当金の50%を目処とする
- ・ 業績にかかわらず年間配当10円を維持する(安定配当の見地)



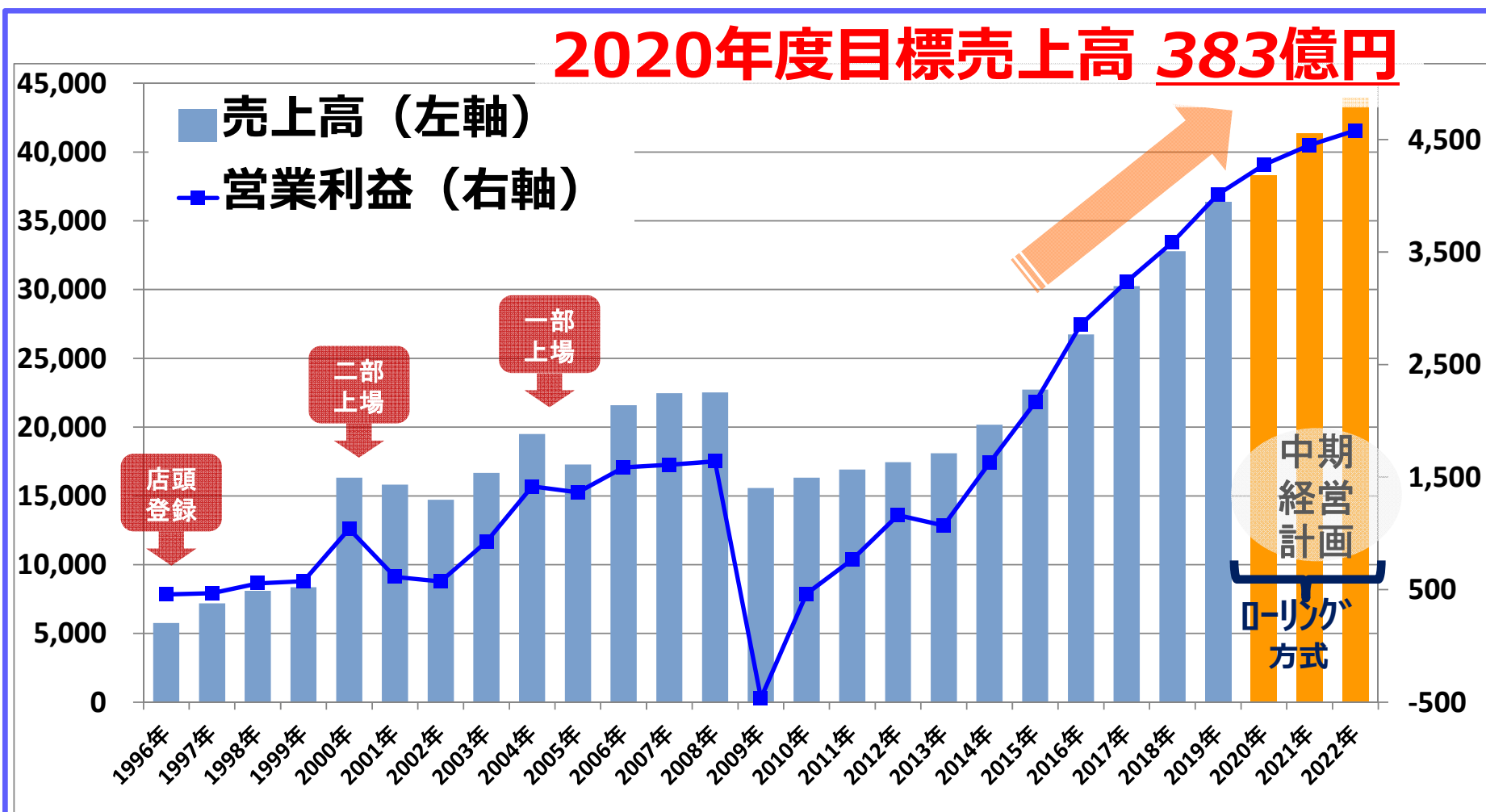
分割①・・・2018年1月1日を効力発生日として、1株を2株とする株式分割を実施

分割②・・・2019年7月1日を効力発生日として、1株を1.1株とする株式分割を実施

業績推移

増収・増益

第2創業期の礎作り着実に成長を達成



【備考】 ①1996年～1999年は個別業績 ②2000年以降は連結業績

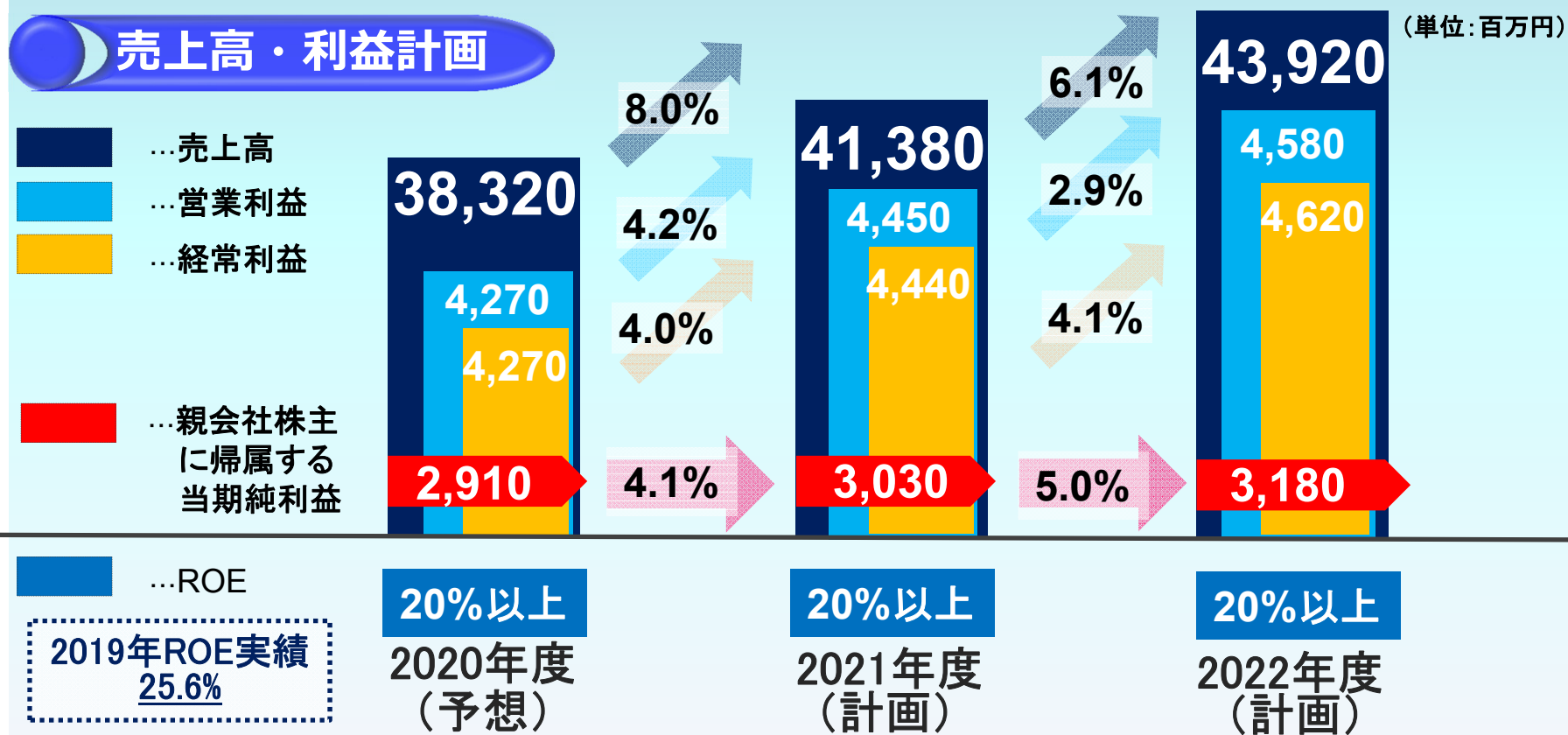
単位：百万円

■ 新中期経営計画（連結・定量目標）

第11次5カ年計画（2023年迄にありたい姿）

定性目標: 新産業革命時代に向けた経営資源の再投資

3カ年毎のローリングプランを策定⇒持続的なイノベーション



※2018年4月設立の新会社「(株)アグリ&ケア」の業績を含む。

■ 中期経営計画（連結）

各施策と主な内容

1

**アウトソーシング
市場における
持続可能な競争
優位性の創出**

■ 内容

- ①ドメイン再構築による
売上拡大と収益力向上
- ②グループ連携による多様な
採用活動の拡大
- ③グローバル人材の雇用拡大
・育成強化
- ④他社と差別化された
企業ブランディング実行

2

**投資の拡大による
成長の加速と
収益基盤の強化**

■ 内容

- ①農業・介護分野における
新たな市場創出
- ②次世代技術を軸とした
資本・業務提携推進

3

**事業環境の変化
に対応した
人材育成と組織
の最適化**

■ 内容

- ①ITシステム投資にて
高水準の業務効率実現
- ②シニアや女性、障がい者
が活躍する環境整備
- ③技術と経営視点を持った
未来志向の人材育成

【備考】 定性目標は第11次5カ年計画に基づき内容更新

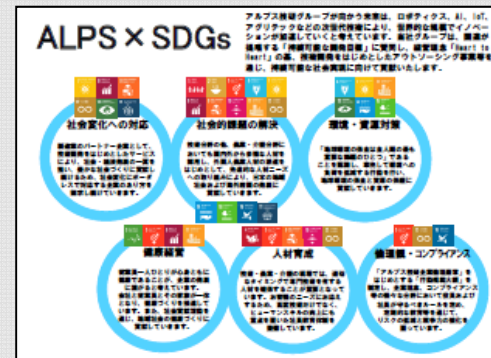
■ サステナビリティ・ESGの取組み

ALPS×SDGs



SDGs推進企業として
外務省HPに掲載

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/case/org1.html>



ダイバーシティ

大勢の外国人社員が
生き活きと活躍



外国人社員向け料理研修



グローバルスピーチコンテスト

バリアフリー

2020年バリアフリー週間に向け
バリアフリープロジェクトに協賛

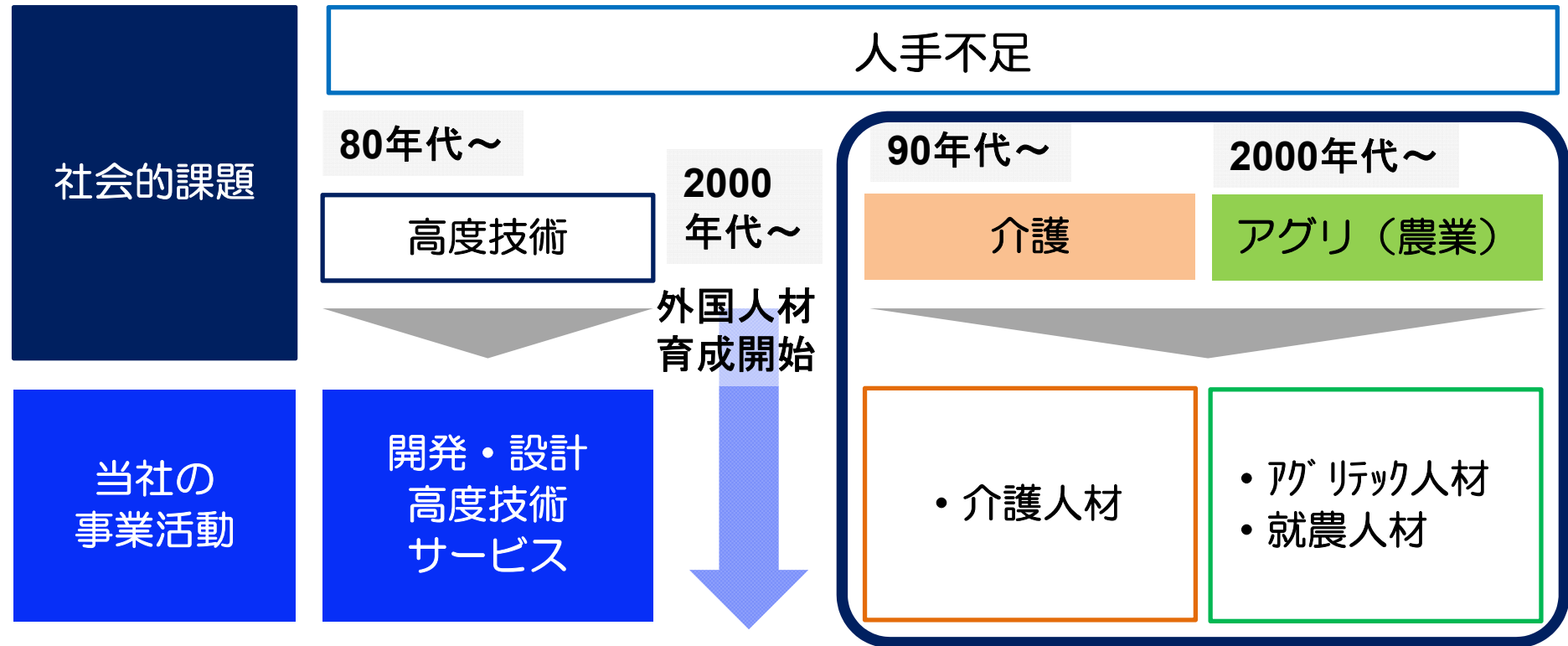


将来リスク

- 気候変動
- 人手不足
- 高齢化
- 食糧問題
- エネルギー・資源問題
- プラスチック資源循環など

■ ESG:事業活動を通じた社会的課題の解決

■ 時代に先駆けた外国人材活躍推進



事業活動推進 ⇒ 社会的課題の解決 ⇒ 企業価値のさらなる向上

アルプス技研は、 引き続き積極的に 株主還元の充実を 図ってまいります。



【免責事項】

本資料に記載されている業績予想、将来予測等は、作成時点において入手可能な情報に基づく見通しであり、潜在的风险や不確実性が内在しています。実際の業績は、経営環境や様々な要因の変化によって記述内容と大きく異なる可能性があります。

＜当社公式キャラクター＞

人が未来—Next Technology Frontier®

Alps 株式会社アルプス技研



アルスくん

※「アルス」
… ラテン語で
「技術・才能」